



阿南高校の「地域文化コースの生徒の皆さんが
ひまわりの種採りを体験しました」(9月17日)

採った種からひまわり油を搾りました



令和2年11月1日

発行人●阿南町公民館編集部

編集人●公民館編集委員会

印刷所●飯田共同印刷株式会社

連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287 E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

あなん

もくじ

- P1 表紙 遊歩道
- P2・3 わが町を盛り上げよう
- P4 大陸流転
- P5 フレッシュギャルはあなた
私の趣味・自慢、私の夢
- P6 公民館分館紹介
- P7 できごと
- P8 あの人この人
うちのホープ、編集後記

遊歩道

つなぐー。生活の満足度とは違
い『幸福感』とは、人と人との結
びつきが強く影響すると言われる。
コロナ禍で厳戒態勢の中、実施
された町内小学校の運動会。リレ
ーのバトンを高学年は軍手をはめ
て次の走者へつなぎ、低学年は
コーンを倒したら次のランナース
タート！リレーのできなかつた学
校もある。組体操も、みんながひ
とつになり、手をつなぎ肩を組み
という醍醐味が実演できない中で、
演目には創意工夫が凝らされて、
見事に次のリーダーへとそのバト
ンが渡された。

近隣では、飯田市長選挙が8年
ぶりに行なわれ、4期16年の任期
を終えた前市長より、そのバトン
は新市長へと受け継がれていく。

ひまわり畑のボランティアに、
阿南高校地域文化コースの三年生
が関わり、種を撒き、草を取り、
開花、種を採り、油を搾る過程を
体験。ひまわりへの思いも一塩。

どんな風に人と人をつなぐか、
今こそキーワードは「つながり」。
そんな役割を、みんなで果たして
いきたいと思う冬のはじまり。

わが町を盛り上げよう

鈴ヶ沢の伝統野菜たち

和合元気をむらびつくり協議会



鈴ヶ沢の3品種の伝統野菜

和知野ダムから売木川の流れを左手に見下ろしながら、川沿いの道をくねくねと進み、さらに鈴ヶ沢川を上流へ、山々を見上げながらいくつかの民家を通り過ぎ上って行くと、綺麗に管理された畑が目に入ります。その畑では、信州の伝統野菜の

「鈴ヶ沢なす」「鈴ヶ沢うり」「鈴ヶ沢南蛮」が栽培されています。

これら3品種の鈴ヶ沢の野菜たちは、その名の通り和合地区最奥、売木村・平谷村の境にある「鈴ヶ沢集落」で栽培されてきました。それぞれの詳しい来歴は不明とされていますが、昭和30年代には既にあったと聞いています。鈴ヶ沢で世代を超えて受け継がれてきたこれらの野菜は、ずいぶんと長い間、名前が付けられることもなく、ただの「なす」「うり」「南蛮」と呼ばれていました。固有名詞がなくても困らなかったのは、鈴ヶ沢の人たちが同種の他品種を作ってこなかったからです。「なす」と言えば、今の「鈴ヶ沢なす」しかなかったのです。見た目も味も特徴的で優れているこの野菜たちを、集落内だけに留めず、世の人々に広く知ってもらおうと最初に取り組ん

だのは、阿南町社会福祉協議会（以下、町社協）でした。今から14年前のことです。

そしてこの時、名もなき野菜たちには名前が必要となりました。「名前を付けるたって、今まで、ただ『なす』とか『うり』としか呼んどらんかったでね」当時の住民が集まり、話し合いましたが、なかなか良い意見が出なかったそうです。しかし、当時の区長であった故西川^{つるぎ}勉さんの一言で話がまとまりました。勉さんは、当時既に過疎化が進行していた鈴ヶ沢の状況を踏まえ、こう言ったそうです。「この先、10年後、20年後には、鈴ヶ沢の集落はもうないかもしれない。でも、この野菜たちには鈴ヶ沢の名前をつけておけば、野菜がある限り、ここに鈴ヶ沢があったという証になるだろう」。

こうして、ただの「なす」「うり」「南蛮」だった野菜たちは、それぞれ「鈴ヶ沢なす」「鈴ヶ沢うり」「鈴ヶ沢南蛮」と名付けられ、平成20年には鈴ヶ沢なすが、平成21年には鈴ヶ

沢うりが、平成26年には鈴ヶ沢南蛮が、「信州の伝統野菜」となりました。



鈴ヶ沢の野菜たちを継承し続けてきた松村久子さん

平成24年、和合住民有志により「和合元気なむらびつくり協議会」（以下、協議会）が発足され、町社協と協働し、伝統野菜の継承活動を始めました。平成25年には、鈴ヶ沢の隣の心川集落で耕作放棄地となっていた一反歩の農地を借りました。その農地は協議会員によって再生され、伝統野菜の栽培が本格スタートしました。

以来、様々な人たちが関わり、多くの方々のお力をお借りしながら、圃場を維持し、生産活動を続けています。5年前からは「農福連携事業」として、障害者支援施設「阿南学園」の就労支援センターの皆さんが4月の種まき以降、畑の準備（肥料撒き、畝立て、マルチ張り）、定植、定植後の支柱立て、また、収穫期を終えた畑の片付けなど多くの作業で大活躍してくれています。今では、彼らの働きなしには、この伝統野菜事業が成り立たないほど、大きな力であ



就労支援センターの皆さんも大活躍です

り、いつも元気よく一生懸命働く姿にエネルギーをもらっています。

ます。また、地区外、町外にも鈴ヶ沢の伝統野菜を深く理解し協力してくれる仲間を作ること目的に開催していた体験イベントでは、県内の大学生など延べ200人以上が参加し、いっしょに作業してくれました。鈴ヶ沢の伝統野菜を使ってくださっている飲食店の店主や料理人



様々な大学の学生も毎年参加してくれます

が「どんな場所でもどんな人たちがどんな思いで作っているのか見てみたい」と圃場を訪れ、作業を手伝ってくれることもあります。

「伝統野菜」に対する全国的な認識向上に伴い、今でこそ、

鈴ヶ沢の伝統野菜も、認知度、理解度が進み、毎年楽しみに待っていてくれる方も増えましたが、これまでの道のりは決して楽ではありませんでした。「こんなもの」と、心が打ち砕かれるような言葉を投げつけられたこともありましたが。しかし、「100のムチと1つの飴」のごとく、諦めることなく、コツコツと努力を積み重ねてきたメンバー。その成果が、今ようやく実ってきたのです。

この活動に携わっていると、「鈴ヶ沢の伝統野菜はただの野菜ではない」と感じる事が多々あります。この野菜を通して起こる自分の日常では考えられないようなたくさんの出会いはまさに、鈴ヶ沢の野菜たちか



伝統的な食べ方「焼きなす」は絶品



鈴ヶ沢の皆さんと行った定植体験会(2016年5月)

らの恩恵です。また、栽培に関わる中で、この野菜たちの「生命を繋いでいる」と思えた時、私たちは伝統文化を継承しているんだと実感します。

信州の伝統野菜の認定を受けるには、その特徴のみならず、食文化や伝統的な栽培方法の有無も重要視されます。鈴ヶ沢の先人が自分たちの暮らしの中で当然のごとく繋いできた野菜たちを、その思いや栽培方法、食べ方を則り、今後は和合の野菜として、メンバー一丸となって次世代に継承する活動を続けていきたいと思えます。

大陸流転

敗戦そして抑留8年

(23)

熊谷秋穂氏著

春節を祝う

中国の正月は旧暦で祝うので月遅れだが、家々の入口、玄関先には赤い菱形の紙に「喜」の字を切り抜いたものや「寿」の字を切り抜いたものがあり、それを張って新春を迎える。中にはかなり精巧で手の込んだものもある。

高足おどりや、赤い布を基調とした布の先端を振りかざして、鼓笛隊のドラや太鼓に合わせて踊るなど、次から次にと集団が練り歩いていく。

高足おどりは、長い棒の上に立った状態だからなかなかむずかしい、俺も挑戦したが立つのがやっとなで、とても無理、出来なかった。踊り手の表情やしなやかな腰付きは本当に素晴らしくて、いつまで見ても飽きない。

日本の流行歌など歌うことは禁じられていたので、ほとんど歌ったことはなかったが、唯一の楽しみは有り金をはたいて、老酎を買って飲むことだった。

この頃から酒の味を覚えた。お国自慢を話したり、食べ物とか習慣、名勝、旧跡などの話いろいろと出た。長野の善光寺とか、諏訪湖があるとか松本城があるとか、行ったことも見たこともないものを自慢になって話したものだ。海がない県だと言われてひげ目を感じたものだった。

鉄嶺生産隊

ハルピンでの弾薬倉庫の建設が終わっても、黄色火薬の荷車積み降ろし、弾薬庫積み込み作業は休みなく続いていた。

二十二年の春、四月中旬に近かったが、街路樹の芽が吹き出す頃になってハルピンでの苦しかった激務の肉体労働はようやく終わった。

弾薬は毎晩、荷車積みしてソ連に送るらしかった。その量は莫大なものだ。

「鉄嶺生産隊に転勤せよ」

「命令」は、手元に文書で通知されることは一切ない。非常に簡

単な手法で、幹部が命令を受けて、口頭で伝達される。

大八浪開拓団の中から抑留されて今、部隊にいるのは、南島昌義さんと俺の二人だけになっていた。

南島昌義さんは、皆が憧れる兵站部最高幹部の護衛兵だった。

汽車に乗って、一夜かけて到着したところが北満の鉄嶺だ。旧義勇軍の駐屯していた跡地だ。宿舎は終戦前の状態だったので、そこに宿泊し、水田を耕作して米の生産に従事することになった。

ハルピンと違って淋しい寒村だった。

毎朝五時、起床ラップで起こされた。この生産隊は韓国人兵士が主力を占めていた。日本人はわずか一五人ほどだった。泰阜在満国民学校の上級生だった韓国兵士丁一根さんがいた。懐かしかった。

彼は既に八路軍の幹部で小隊長だった。彼はことあるごとに、韓国兵と日本兵と競走させた。例えば草刈り、農耕、除草。何でも競い合わせては作業の効率を上げた。

作業は請負制で、早く終わればその日は終わりという仕組みだから、効率は驚くほど上がる。

四月だったが、夜は冷え込んだ。ハルピンの夜間作業の睡眠不足と重労働の疲れが出たのか、俺はつ

いに風邪を引いて、幾日も熱が下らず微熱が続くようになった。

「やばい。また悪病にとりつかれたか」と思って医務室に駆け込んだ。中国人医師が一人いるだけだったが、聴診器を胸に当てながら、「ここでは駄目だからハルピンの兵站病院に入院しなさい」と流調な日本語で命令が出た。「明日の汽車で行くように」と言われた。

いよいよ一人ぼっちになった。「どうにかなるさ」と諦めた。

ハルピンに帰れることは、何よりうれしかった。紹介されて入院したのが、第四野戦軍第七兵站病院だった。

北満富錦に駐屯していた旧陸軍病院で、院長が中国軍人、副院長、主任医師、看護婦長、看護士のほとんどが日本人だった。

総婦長、実原喜久恵さんは、隣村下伊那郡下條村入野出身で、病気になる時にはいろいろと親切にしてもらった。宝情開拓団出身の山田幸枝さんは栄養士で、マリアで入院した時には本当に面倒をみてもらった。どこかでお元気でいるならお会いして、お礼を言いたい。忘れることの出来ない人だ。

私たちの趣味・自慢! 新野習字教室

新野公民館事業として平成16年3月に発足、月2回、新野出張所2階で東京「日本書道教育学会」の教本「不二」を中心に練習に励んでいます。

発足当時は園児から学生、一般の方30余人でしたが、現在は学生・一般で14人、夜間1時間を真剣に机に向かっております。

学生の皆さんには習字を通して国語教育の更なる充実に向けて、一般の皆さんには生涯学習の一環として、目標を持つこと、集まって話すこと、真剣に取り組むことが認知症を予防し、健康長寿に少しでもプラスになればうれしいです。



平成30年頃の教室の様子

フレッシュ ギャルは あなた



和合 あかり
片桐 明里 さん

・あなたが今やっていることについて教えてください

今年の4月から和合小学校で養護教諭としてお世話になってます。先生一年目でわからないことだらけですが、毎日、明るく元気いっぱいの子どもたち、先生方、地域の方々に支えていただきながら仕事に励んでいます。休み時間には、子どもたちと全力で遊び汗を流しています。

・これからやりたいことは何ですか

ピアノで新しい曲を弾けるように練習をして、鈍った指を鍛えていきたいです。また、コロナ禍で県外へ出かけられない状況が続いていますが、身近な所で魅力的な観光地を発見したので、足を運んで自然を味わいたいです。



私の夢

富草小学校 6年

林 朝日 くん



ぼくの夢は、スポーツ系の仕事につくことです。その理由は、二つあります。

一つ目は、サッカークラブに入っているからです。ぼくは今、阿南サッカークラブに入っています。クラブに入っていて楽しいです。また夢中になって練習できたり、シュートが入ったり、パスが繋がったりすることがなにより楽しいので、この楽しさを大人になっても続けたいと思うからです。

二つ目は、もっとたくさんスポーツをしたいからです。サッカー以外に、バスケットやバレーなど、たくさんスポーツを通じて、いろいろなスポーツの楽しさに気づきたいし、ぼくのまだ知らないスポーツを楽しみたいからです。

この二つの理由から、ぼくは、スポーツ系の仕事で働きたいと思っています。

公民館分館紹介

新野地区

栃洞分館

栃洞地区は、阿南町の最南端に位置し、愛知県との県境にあります。

栃洞の名の由来は、その昔栃の木が多く自生していて、栃の洞から栃洞と名付いたと思われる。

今でも伊豆神社の裏山には、栃の木の大木が自生しています。

現在の戸数は三十三戸で、十六人が暮らしています。多い時には四十七戸ほどあったのですが、時代とともに町外への移住などで少なくなってしまう。

栃洞区公民館としての行事、祭り事を紹介します。

一月十三日より行われる雪祭りのため、一月十日ごろ神社参道入口の鳥居の大注連縄作りを行います。

今年度役員の方、副区長、正副分館長、組長六人の計八十人で行います。

太さ20センチ、長さ五メートルの注連縄です。年始めの大事な行事です。

一月十四日に行われる重要無形民俗文化財、新野の雪祭りは、栃洞の西側の小高い所にある伊豆神社で行われ、本祭りは午後十一時ごろより始まります。寒い・煙い・眠いお祭りです。



伊豆神社の鳥居と注連縄

区内の有志五・六人により夜店が開かれ、祭りに一役かっています。日本酒・ビール・おでん・焼き鳥などで舞人や見物客の身も心も温かくしてくれます。三月の初旬には、年度末総会が開かれます。四月第一日曜日には、四社（金毘羅大権現、津島大神、秋葉山大権現、蚕玉大

神）の神事と、馬頭観音の供養が行われます。



四社（金毘羅大権現、津島大神、秋葉山大権現、蚕玉大神）

馬頭観音は、あちこちに散らばっていたものを一か所に集め、石碑を建て、供養を行っています。



馬頭観音の石碑

す。高さ約2・5メートルの大きな石碑です。七月の最終日曜日には環境整備が行われ、草刈りなどの作業を行います。後の慰労会が楽しみです（今年栃洞は中止になりました）。

女性グループ、スマレ会を紹介します。四十代から六十代の十三人の会員で、公民館の清掃（年2〜3回）、花壇の手入れ（5〜6回）を行っています。花壇は公民館前の国道脇の三差路にある国有地を利用して、マリーゴールドなどの花の植付けや、つつじの剪定などの作業を行っています。

以上、栃洞を紹介しました。



公民館前の花壇

できごと
 (9月・10月)

新野自然観察会

10月18日



10月18日(日)に新野公民館主催の自然観察会を行いました。

今年も講師に田嶋英征さんをお迎えし、巢山湖方面を散策しました。

参加者は13人で散策中にキノコやリンドウなどの観察、新野八景についてのお話を聞くことができました。

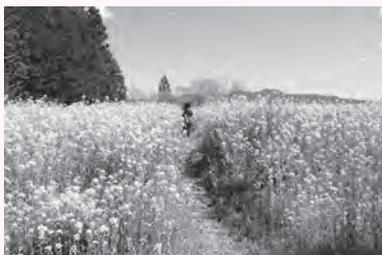
今年度の「感性と創造のフェスティバル」と「県境域住民文化交流会」について

毎年11月に「親と子がつどう感性と創造のフェスティバル」と「県境域住民文化交流会」を開催しています。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響により一堂に会しての開催が難しかったため、「県境域住民文化交流会」については中止とし、「感性と創造のフェスティバル」については参加を了承していただいた団体ごと個別に発表の様子をビデオカメラで撮影・編集し、ケーブルテレビで放送する予定です。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。



今年の平石農場の様子

公民館報あなんでは225号(令和2年5月1日発行)より平石農場の季節ごとの変化を追ってきました。今年は阿南高校の地域文化コースの生徒が平石農場を地域学習のフィールドとして活動しています。今後はさらに地域と密着した活動に展開されることが期待されます。



菜の花がとてもきれいに咲きました(4月22日撮影)



菜の花が枯れたら土の中にすき込み、その後、ひまわりの種を撒きました(6月18日撮影)



一面に生えた草を取りましたが、とても大変そうでした(7月30日撮影)



例年通り見事に咲きました(8月20日撮影)



ひまわりの花が終わったら、種を採り油を搾りました(9月17日撮影)

あの人この人



新野 大村
太田 実さん(写真右)、眞知子さん
(写真中央)、聡さん(写真左)

眞知子さんは大規模経営の農家で育ち、小学生のころから毎日並外れた手伝い

(モミの袋を軽トラに乗せるなど)をされていたので、体力はその頃についてと言われました。将来を考えた時、農業しか思い浮かばず、農業専門学校に進みました。19歳で母親を亡くされたとき、無理をしてまで働く大規模経営より、家族でいっしょに働きたいと思える農業がしたいと思っただけです。実さんと結婚され、いっしょに思い浮かべた農業が始まりました。本当にこまめによく働かれます。「体力があるからね」と明るくにっこり言われました。

実さんの家は、トマト・トウモロコシを中心とした専業農家です。新野のハウストマトは、50年の歴史があり、収入率の良い種目です(ちなみにイチゴ・きゅうり・トマトの順)。農業が好きでしたので農業専門学校に進み、迷わず家に戻られました。寡黙で黙々と仕事をされながら眞知子さんとは学校で出会い結婚されたと教えてくれました。トマトの収穫量が減る秋はライスセンター、冬はスキー場でバイトです。体はいつも動かしていないと怠癖がつくと言われました。

息子の聡さんは農業大学卒業後、生産物流の勉強のため市場に就職しました。仕事は過酷でしたが知識が身につくまでとがんばりました。家に戻ったのは農業で生活できる基盤があるからです。「自分のやったことが100%結果が出る農業は、職業としてやりがいがあり好きだ」と言われます。この言葉が心に響きます。家族でいっしょに働き生活できる農業がここにあります。

うちのホープ



和合 三度
ふかだ てつじ ともこ
深田 哲次さん・知子さんのお子さん
ひろき まさと
浩暉くん(写真右)、理斗くん(写真左)

「ドンドン」ドッコイ ドッコイ ドッコイ。僕も太鼓の音のマネをしてるよ。

和合の川で遊ぶのも好き。浮き輪で泳いだり、おもしろい形の石をみつけたりしているよ。石を投げたら、水の上を2回とんだよ。
お兄ちゃんとは、いっぱいケンカもするけど、いっしょに闘いごっこして遊ぶのが楽しいんだ。
大きくなったら、お金持ちになりたい。それで好きな物を買いたいなあ。

こんにちは。僕の名前は理斗です。いっしょに写真に写っているのが、お兄ちゃんの浩暉です。6月にお母さんとお兄ちゃんと阿南町に引越してきました。今は大下条保育園のうめ組さんです。保育園では、お友だちが竹馬をしているのを見て、僕も練習しているよ。足の指の皮がむけて痛かったけど、竹馬で歩けるようになってうれしんだ。保育園の給食は、ママのご飯よりおいしくて、いつも全部食べてるよ。

今好きなのは、卓球。お兄ちゃんやお母さんたちが太鼓の練習をしているときに、卓球をしているんだ。前よりうまくなったよ。
ドンドン ドンドン ドンドン



65歳以上の高齢者が、集落人口の半数を占める限界集落。わが町も近づいてきています。そこで気が付いたのは、まだ65歳は働き盛り、80歳を超えないと今や高齢者ではないような気がします。

農業専従者の高齢化で食料自給率は40%を下回っています。働き盛りのあなた、自給率アップに貢献しましょう。